

科目名		臨床検査演習			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕									
言語聴覚療法の検査における基本的な知識と技術を習得する。									
〔授業全体の内容の概要〕									
学んだ検査法を確認し、言語聴覚士として必要な知識・技能、患者対応のあり方について学ぶ。									
〔講師の実務経験〕									
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕									
言語治療において、大切な情報収集の中核となる検査を、系統的に行うことを目的とします。主に失語症のリハビリテーション計画を立案するために、S L T A、W A B失語症検査の内容を把握し、手順を習得する。また、検査の解釈と評価もあわせて学習する。									
回数	講義内容								
1	標準失語症検査（S L T A）の概要説明、実施にあたっての全般的注意								
2	練習問題をしながら聴く項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）								
3	〃								
4	練習問題をしながら話す項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）								
5	〃								
6	練習問題をしながら書く項目の説明（検者と被検者に分かれて演習）								
7	症例Ⅰの検査場面を見て、反応を記録し採点する（V T R利用）								
8	症例Ⅰの成績を出し、初期評価する								
9	症例Ⅰの訓練プログラムを立案する								
10	他の練習問題をする								
11	〃								
12	〃								
13	症例Ⅱの検査場面を見て、反応を記録し採点する（V T R利用）								
14	W A B失語症検査の概要説明								
15	W A B失語症検査（検者と被検者に分かれて演習）								
【 準備学習・時間外学習 】									
【 使用テキスト 】									
書籍名					著者名		出版社		
標準失語症検査マニュアル 第2版					日本高次脳機能障害学会		千葉テストセンター（新興医学出版社）		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】									
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。									